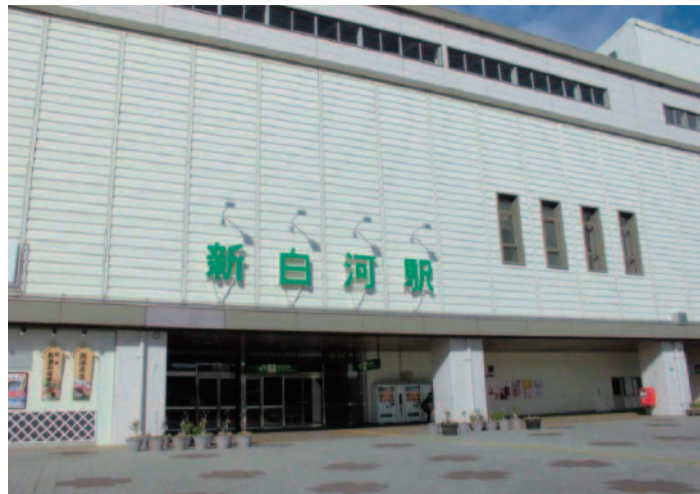


山下ようこ 福島県の植物工場視察 in 福島県白河市

2015.1.9

福島県南部、白河市の表郷地区や東白川郡と西白河郡の町村を主エリアとする東西しらかわ農業協同組合。ここでは、独自ブランド「みりよく満点」農産物の栽培に力を入れており、中でも、昨年1月にスタートした植物工場は、全国から注目を集める画期的な取り組み。山下ようこは昨年11月に東京ビッグサイトで開催されたアグロ・イノベーションでの出会いをきっかけに、今回、訪問する機会をいただきました。



JR新白河駅下車



みちのく(東北)の玄関、白河市。新白河の駅前には、奥の細道の作者、松尾芭蕉の碑が。



駅から農協まではバスで移動。バスは白柵線(はくほうせん)と呼ばれる路線、白河と柵倉町を結びます。



車窓からの景色。白柵線はもともと鉄道路線。昭和19年に鉄道が休止になり、以後、鉄道の軌道をバス専用路線として活用する極めて珍しいケースです。単線なので、対向車も後続車もなく、乗り心地は快適。バスの右側の窓からすぐに農地が広がって見えるのは、このためです。



白河市表郷にある東西しらかわ農業協同組合到着。案内してくださったのは、営農経済部農業振興推進課係長・根本真由美さん。昨年11月のアグロ・イノベーションの会場でお会いし、訪問を約束していました。



根本さん運転の車で数分、植物工場「みりよく満点やさいの家」(白河市表郷)到着。すばらしい冬晴れの空、でも風がかなり強く、東北の冬を実感。



植物工場の中へ。外の気温は3度、中は常に20度前後に保たれています。完全人工光での栽培。LEDと蛍光灯の併用です。※見学室からの撮影。栽培室は外気遮断の厳密な殺菌空間のため、温水シャワーで身体と髪を洗い、防護服に着替え、さらにエアシャワーを浴びた作業スタッフのみが入室を許可されています。



工場の奥、防護服で作業するスタッフ



説明は、東西しらかわ農業協同組合営農経済部 植物工場長の下重勝則さん。



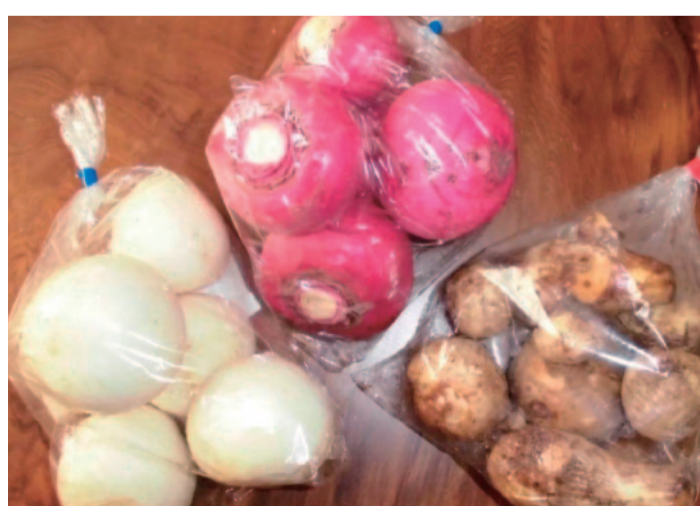
再び根本さんの車で移動。東白川郡柵倉町にある「みりよく満点物語」到着。建物の向かって左側が直売所、右側はレストラン。



工場生産された野菜は、こうして袋詰めされ、販売されます。外気遮断、農業不使用のクリーンな環境で栽培されているので、洗わずにそのまま食べられます。※お土産にいただき、山下ようこも家で味わいました。軟らかくて苦みがなく、本当においしい!!



レストランはクリーンで明るいつろぎのメニュー。しかもお料理は本格シェフによる地元の農産物の味を生かしたメニューの数々。根本さんおすすめの福島牛のビーフシチューや植物工場生産された野菜に舌鼓。素敵なランチタイムとなりました。



食事の後は、建物左側の農産物直売所へ。カブとサトイモを購入。カブは東白川郡塙町の生産者、サトイモは柵倉町の生産者の栽培です。



こちらは、たなぐらいちご。品種は福島が生み出した「ふくはる香」。甘くてみずみずしい早春の息吹を感じるおいしさでした。。



こちらは、管内で生産されるコンニャクを原料として開発した飲むこんにやくゼリー。ゆず、ブルーベリー、イチゴの3つの味。食物の持つ機能が最大限高まるような栽培方法、「食べて健康になる」農産物の供給。東西しらかわ農業協同組合が目指す農業の姿が、この製品にも表れています。

植物工場もレストランも農産物も、すべてに「みりよく満点」の東西しらかわ農業協同組合。その志と底力に感動!!
山下ようこは素敵な出会いに感謝し、そして福島県の農産物の販促になお一層取り組むことを年の初めに誓います。